

梅鶯仏教壮年会報

第179号
2022年
12月5日

仏 壮「 除 夜 会」

十二月十七日（土）

午後四時～

お勤め（正信

偈）

手を合わすことを知らない親が
子を育てると、
学問・知識だけをそなえた
鬼を育てるようなもの、
自分が育てた鬼ゆえに
やがて泣かされる。

報恩講 石原教人師お説教よ

（質問）往生とは、肉体な
か魂なのか？肉体は死んだら
消滅しますが、往生の主体は

（質問）永代経法要は門徒が
つとめるのか？寺院がつとめ

「何が往生するのか？」。私
達にとつて最も関心が高く、私
達にも重要な問題です。同時に、
最も重要な問題を明確に分かる
に、そのことを明確に分かる
ことは、凡夫と云ふべき、迷いの世
達から離れることができない
と言われるのでしよう。と
れたお釈迦様は、「覚者」とな
抜かされてお釈迦様は、すべてを見
夫には理解すること、が、凡
いたお答えすること、が、
一切のお答えすること、が、
と、いわれます。へ、これを「釈
迦の無記」と呼びます。私達に
おいて、明らかなように、私達
の肉体に普遍的な魂のような
ものがあるとは考えられませ
んし、逆に死んでしまえば何
もなく、生きていることも考
えられません。生きていること
が、生じるのは、必ずしも必
ず、そのために、お釈迦様は、
象的な議論を重ねるのではな
く、

まず、「永代経」の本来の
意味は、先祖代々からの法
道場である寺院を護持するた
めに財物を施す（「財施」）
とともに、故人・先祖を偲びつ
緒に故人・先祖を偲びつ、
南無阿弥陀仏の法縁に出遇
せたいとあります。（「法施」）こ
とに、あたります。
「財施」と「法施」が相ま
た「布施行」としてこそ本
の意味合いがあり、寺院と門
徒が一緒に、お勤めすること
大切であり、法要経費の負担に
は、たゞし法要経費の負担に
（質問）讚仏偈、重誓偈はど
の様な時に読むのですか？
どの様なお経も、どの様な時
に、どの様なお経も、どの様な
本願寺の法要差定（次第）で
読むお経が決まっています。
と、あるお経があります。
「讚仏偈」「重誓偈」はい
れ、比較的短いお経の一部
で、お寺などのお経の限ら

題材法話

本年度もこうして梅鶯仏の總會を開催できましこと有難いことと存じます。年齢を重ねるごとに睡眠が重なるにつれ、睡眠がなくなり、次第に少くなくなり、春眠を覚えず、という春眠とは遠い昔に思えます。

と、この「曉」を覚えずの「曉」は、どこの時間帯だと思われ、「曉」とは夜明け時分、夜明けも知らず、思っている方が多いと思えます。実は夜明けは「あけぼの」とい、昇る前の「は」もしくは「の」



「と」の意味になり、確認に夜が明けて目が、夜中に目が覚めるのは閉口します。その

の「曉」という春眠を覚えず、という気持ちの良さが実感できま

来、漢字というの、本意、この意味を知ると、

○漢字にご法義を味わ

つ、その漢字の意味、阿彌陀仏の教えを味

わ、阿彌陀仏の教えを味

口「聴聞」と

く、基本を「聴聞」と

う、字は「聴聞」と

字、この大きな違



「人の話を聴く」という時にこの字を使い

「き」という字を使うのは、

「聴」という字は「鳥の音が聞

きた」というように、自然と聞こえる、人の

働かせる、というように

「聴聞」とい、二つの字を並べるのでし

う、これはとても大切

な意味が、お説教を聞く

「聴く」から始

す、つまり自分の

聞、この「あう」



「と」が聞法を重ねる

「き」という字は「鳥の音が聞

きた」というように、自然と聞こえる、人の

働かせる、というように

「聴聞」とい、二つの字を並べるのでし

う、これはとても大切

な意味が、お説教を聞く

「聴く」から始

す、つまり自分の

聞、この「あう」

と、この「あう」